

ナシ葉炭そ病の発生と防除

森田泰彰・矢野和孝・松本宏司・古谷眞二・倉田宗良

Occurrence and Control of Anthracnose on Leaves of Japanese Pear

Yasuaki MORITA, Kazutaka YANO, Koji MATSUMOTO,
Shinji KOTANI and Munenaga KURATA

要 約

高知県で栽培されているナシで、1987年頃から葉炭そ病の被害が発生し、早期に落葉することから、品質の低下が問題となった。本病の発生時期には品種により差がみられ、極早生品種の‘長寿’では6月中旬から、晩生品種の‘新高’では8月上旬から発生した。また、本病に対しては、品種により感受性に差がみられ、‘幸水’や‘新世紀’では感受性が低かったが、‘新高’や‘長十郎’では高かった。病原菌の菌そうの生育は20～30℃で、分生子の発芽は25～35℃で良好であった。薬剤防除を試みたところ、チオファネートメチル・マンネブ水和剤の効果が高く、‘新高’に対しては、梅雨明け頃に1回と、8月中旬までにもう1回、予防的に散布するのが効果的であると考えられた。

キーワード：果樹病害，ナシ，葉炭そ病，
Colletrichum gloesporioides (Penzig) Penzig et Saccardo